【議長賞】思い出はビビンバ

安城中部小学校　　高橋　周平

ぼくの好きな給食はビビンバです。

なぜビビンバが好きかというと、ひとつはお肉と錦糸卵がおいしいこと。もうひとつは、はじめて母と一緒に作った給食メニューだからです。

ぼくは四年前、二年生のころに「親子給食調理教室」に母と参加しました。給食センターの方は、いろんなことに気を付けていました。

もしも給食を食べて、食中毒になった人が出たときに、どの食べ物が原因か分かるように、毎回どのおかずも五十グラムずつ分けて保管しているそうです。また、手洗いはひじまで洗うなど食中毒を出さないためのえい生面の徹底も驚くほど気を使われていました。栄養面では、思っていたよりもたくさんの野菜の種類がはいっていました。うす焼き卵のレンジでの作り方も教わりました。そして、たくさんの野菜にしっかり火が通っていて、給食センターの人の技術のすごさを感じました。

一通り説明を聞いた後、いよいよビビンバを作る番です。料理が苦手だったぼくにとっては、七工程あるこのレシピには頭がこんがらがってしまうような内容でした。少しきん張して、本当にできるのかな、と思いました。だけど、調理教室の先生や、一緒に作ってくれた母に助けてもらって、なんとか完成することができました。一生懸命作った甲斐あって、一緒に作った給食版わかめスープと食べると相性がバツグンで、ほおが落ちるほどの美味しさだったのを、今でも覚えています。

しかし、後日家で作ったビビンバと給食で食べるビビンバは、なぜか給食のほうが美味しいのです。そこで母に理由をたずねてみると、大きななべでたくさんの具材を使って作っているからだよと聞きました。たくさんの具材を一度にいためることは、力もいるし、大変だと思います。でも、その苦労が給食をおいしくさせているのだなと思いました。なので、これからも給食センターの方々に感謝して、どんなメニューも残さずおいしく給食をいただきたいと思います。